

# 地域的

## 猫の多頭飼育崩壊 防止へ

### 聞いて！

ペットが増えて管理できなくなる「多頭飼育崩壊」や、地域の野良猫がいつの間にか増えすぎるなど、動物にまつわる問題は後を絶たない。兵庫県芦屋市の公益財団法人「どうぶつ基金」は、こうした問題に頭を悩ませる自治体などに、猫の不妊去勢手術にかかる費用の支援に力を入れている。佐上邦久理事長(左)に活動にかける思いを聞いた。【まとめ・川原隆史】

不妊去勢手術の費用を支援し始めたのはいつからですか。

◆2004年度の12歳犬を保護し、シェルターで、いずれも個人からの申請でした。自治体からの申請は11年度からです。今よりもずっと認知分の方が多かった時期です。自治体の統計では、猫の殺処分数は14年度は約23万8900頭でした。21年度は約1万4000頭となっています。

活動のきっかけを教えてください。

◆元々は、野良猫や野良犬の保護、シェルターで、現在どれどれの手術が行われているのか、

◆22年度は6万7000頭です。そのうち自治体からの申請は3万243頭と、行財政がいかに対応に苦慮しているかが伝わります。基金からはワクチン接種

### 公益財団法人どうぶつ基金



どうぶつ基金の佐上邦久理事長(兵庫県芦屋市)

いと考えようになり、方針を転換しました。支援までの流れを教えてください。

◆どうぶつ基金の「さくらね」無利不妊手術事業に自治体が登録し、申請に基づいて全国の協力病院で使える「無利不妊手術チケット」を発行する形で支援しています。対象は野良猫と多頭飼育崩壊の猫です。23年11月時点で全国4万7自治体が登録しており、協力病院は105に上っています。

◆15年に初めて多頭飼育崩壊した現場に支援をしました。大阪市宮住東の一室で、猫3頭が飼われていました。ふん尿が臭いこと、隣子が喧嘩していきがるのか」と感じたことを覚えて、猫を一頭ずつ捕獲し、不妊去勢手術をしました。猫元のボランティアと協力し、部屋を清掃することもありました。

◆多頭飼育崩壊は近年増えていっています。相談件数は増えていますが、多頭飼育崩壊そのものが増えたとは感じません。元々ある問題だったので、報道などを通して社会に知られるようになり、発覚するケースが増えたのだと思います。

◆手術をした中で、多頭飼育崩壊現場にいた猫は何頭でしたか。

◆22年度の約6万7000頭のうち、1万3000頭です。

◆多頭飼育崩壊における犬と猫の違いは何ですか。

◆多頭飼育崩壊が増えているのは、猫の方が繁殖力が高いため、繁殖しやすいため、発覚しやすいためです。猫は年に3回出産し、1回で6〜8頭生まれまわります。猫は2、3頭でも不妊去勢手術をしないと、2年ほどで100頭まで増えてしまいます。悲惨なことに、増えすぎると新たに生まれた子猫はすべてに共食いされてしまいます。犬と違って猫は子猫が小さく外に漏れづらいため、周囲の発見も遅れます。マンションの一室で多頭飼育崩壊が起きていても、隣人は気付いていなかったというケースもありました。

◆なぜ多頭飼育崩壊に陥ってしまうのでしょうか。

◆高齢者や生活に困難

2088年設立。不妊去勢手術の費用支援のほか、飼い主のいない猫を保護して不妊去勢手術を行っている。野良猫の不妊去勢手術費用を支援しやすくするため、自治体が条件として定めている「地域住民の代表の台頭が必要」の項目をなくすよう、要望書を11月1日に大阪府に初めて提出した。問い合わせはホームページ(www.onahurukku.or.jp)から。

不妊去勢手術をするため、野良猫を捕獲する佐上理事長(左)と職員(右)が2017年、どうぶつ基金提供

### 阪急「大阪梅田駅」50周年



1973年の阪急梅田駅の落成式モノー(モノー)を記念して、阪急梅田駅から大阪梅田へ移動が実現となり、はじまられる新線「大阪梅田線」の100周年を記念して開催。

### クイズ大会、放送体験、グッズ販売——23日に記念イベント

阪急電鉄大阪梅田駅(大阪市北区梅田)が23日、現在の場所に移設開業して50周年を迎える。同日にクイズ大会や子ども向けの制服着用撮影会といったイベントを開催ほか、記念入場券などの販売を予定している。同社は「時代とともに大きく変わってきた大阪梅田駅の姿を感じてほしい」と話している。

1973年に阪急梅田駅の1号線が開業した当初の梅田駅は、現在阪急百貨店のめだ本店などが入る複合商業ビルの南側にあり、駅舎は木造2階建てだった。時代の移り変わりと乗客の増加に伴い、73年に北側の現在の場所へ移設した。2019年に「大阪梅田駅」に名称変更。京阪線、宝塚線、神戸線で3線ずつ、私鉄で最大級の10線10ホームを擁するターミナル駅だ。

23日は午前10時〜午後2時に駅1階広場でクイズ大会や、駅の車内で車掌の放送体験などがあ



る。50年前の駅完成モノーの写真をはじめと、50周年のヘッドマーク(西バザン)の複製(各300円)といった記念グッズを用意している。

また、30日まで記念のヘッドマークを付けた車両を運行しているほか、開業時からの駅の歴史を振り返ることができる約70点の写真パネルを駅1階で展示している。

詳細は公益財団法人「どうぶつ基金」ホームページ(www.onahurukku.or.jp/prices/detail/008888.html)。